

# 桜華

白石市立福岡中学校  
全校生徒 114名  
令和2年10月9日  
第8号  
文責教頭

心も体も元気な子どもを育成するために、家族みんなで、「早寝・早起き・朝ごはん」を実践しましょう！

## 令和2年度第1学期終業式 式辞

早いもので、4月の始業式から臨時休業期間を経て、1学期が終了します。1学期の授業日数は88日間でした。

1年生の皆さんは、入学式が終わったとたん臨時休業期間に入り、学校が再開するまで、さぞ不安だったのではないのでしょうか。何回かの登校日を経て、5月25日から学校が本格的に再開した日には、福中生全員が元気に登校する姿を見て本当にうれしく思いました。2年生の皆さんは、職場体験が中止になりました。実際に職業を体験することを通して、社会とかかわることを学ぶ機会が失われたことは残念ですが、2学期には立志式が予定されています。自分の夢や志を見つめ、未来への希望につながる式典になることを期待しています。3年生の皆さんは、先週、修学旅行に行ってきました。3年生の学年だよりに生徒の感想が載っていましたので紹介します。「修学旅行で大事なことは、どこへ行くかではなく、クラスの皆と一緒に思い出をつくること」という内容でした。修学旅行の変更については、不安や不満など一人一人の思いは少なからずあったことと察しますが、一人もそれを外に出さずに、3年生全員でいい思い出をつくろうと団結して取り組んだ姿は素晴らしいものでした。どうぞその思いを持って卒業までの日々を大切に過ごしてほしいと願います。

新型コロナウイルスの影響から、学校を含め、社会生活において様々な問題が生じ、今もなお終息の見通しが見えない状況が続いています。9月29日の報道によると、世界で新型コロナウイルスが原因で死亡した人は100万人を超え、4月以降一日当たり5000人が亡くなっていることになるのだそうです。世界の歴史に残る大変な事態であり、その只中に私たちは生きています。10年前の東日本大震災をはじめ、地震や台風など様々な自然災害が毎年のように続き、多くの命が失われました。また、世界に目を向けると、宗教や人種差別をめぐる紛争などで命を落とす人がいます。いずれにしても、命を失った人の無念さ、そしてその方たちの家族の悲しみを想像すると胸が塞がる思いになります。

「命」について皆さんに考えてほしいと思います。これからお話をしたいと思います。「命」とは何でしょうか。この体のことでしょうか。この心のことでしょうか。あなたの命と他人の命とは違うのでしょうか。「違わない、命はみんな同じだ。」と誰もが答えたくなくなります。でも世界に目を向けると、差別や偏見、病気や災害、戦争や犯罪などによって命はみんな同じには扱われていません。

正しい命とそうでない命があるのでしょうか。このような命に対する問いに対して、どのように答えますか。もしかしたら、その問いに対する答えを探ることこそが、人生における学びの目的とも考えられます。学校とは、その学びの方法を身につける場所であり、実際に学んでいく過程は、一人一人の「人生」という場所なのかもしれません。

アートを通して命についてメッセージを投げかけている美術館があります。岩手県花巻市にある「るんびにい美術館」です。知的障害をもつ人のための社会福祉法人が運営しています。その美術館のホームページに素敵な詩のような文章が載っていましたので、紹介します。

私たちの心は、沢山のものを区別します。  
障害者と健常者。おとなと子ども。男性と女性。  
国、人種、人や動物や植物…。

この世界は、無数のボーダー(境界)でできています。

もしも、すべてのボーダーを心から消し去って、

それらをただ一つのものとして見る事ができたなら。

もしそんなことができたなら、

世界はどんなふうに見えるのでしょうか。

もしかしたら、

そこにはただ命の輝きだけがあるのかもしれない。

くつきり立ち現れた誰かの命の輪郭は、

あなたの命の輪郭をも浮かび上がらせる。

誰かの命の音に気付くとき、

あなたは自分自身の命の音を聞いている。

それはきっと、幸せな出逢いです。

存在するとは、表現すること。

表現するとは、存在すること。

あらゆる存在は表現しています。



コロナ禍の今だからこそ、私にはこの文章が心に強く迫ってきます。自分の命、他者の命の尊さを思わずにはられません。互いの命について考えること、思いあうことが、差別や争い、災害などの苦しみを乗り越える術なのではないか。皆さんも、命について、考えてほしいと願います。

結びになりますが、今日この後、担任の先生から通信票が渡されます。私は皆さん一人一人の通信票を見て思ったことは、担任の先生は、皆さんのよいところ、がんばったところ、がんばってほしいところを本当によくみていて、心を込めて書いているということです。通信票を受け取ったら、あらためて自分の1学期の「振り返り」をしっかりと行ってほしいと思います。そして、希望をもって2学期を迎えてほしいと願います。以上で式辞といたします。

令和2年10月9日 白石市立福岡中学校長 中 秀司